

6. 意思決定を支援するための情報収集と記録

本人の価値観を尊重し、支援者の気づきを高める

なぜ情報収集と記録をするか



- ▶ 一般的には、(本人ならびに支援環境とその相互作用の)評価を行い、組織内・組織外との連携を図る根拠資料とする。
- ▶ その意味で、支援付き意思決定であれ、代理代行決定であれ、情報収集と記録は重要な活動。
- ▶ 独り善がりではない、プロセスを重視した支援を行うためにも有用。
- ▶ 成年後見の職務でも「**本人情報シート**」の活用が期待されている

ただし、ここでは特に、「**意思と選好に基づく最善の解釈**」を行うために必要な選好情報に焦点を当てる。

選好を重視した情報の収集・共有・蓄積・更新の例 Scope Australiaの方法

「意思決定支援を使いながら生活する人々

“微かに聞こえる声を聴く”」

Scope (Watson & Joseph) 2011

People leading lives they prefer
through supported decision making

“Listening to those rarely heard”



非意図的なメッセージ
(情報)を含む





Scope Australia (Watson & Joseph)による意思決定支援の枠組み

1 とともに決定事項を定める

すべき決定事項があるか、それは何か

誰にとって重要な決定か、なぜか

2 とともに声を聴く:情報収集する

意思と選好を丁寧に収集する

密度の濃いやり取りを重ねて情報を集める

本人をよく知る人の声も聞く

3 とともに決定のための選択肢を探す

本人の選好を参考に、考えられる選択肢を複数あげる

4 とともに各選択肢に対する本人の反応を記録する

各選択肢を試す、場所へ行く、本人の反応を記録し、複数名で検討する

決定の事後についても記録していくことが重要

5 とともに決定し行動する

本人のために(for～)ではなく、本人にとって(to～)何が大切なのかを考える

意思と選好(プレファレンス)情報の収集・共有・蓄積・更新

- ・みんなで**選好**の収集を続ける。非意図的なメッセージや行動もよく観察し、発生や繰り返しの頻度、反応などを勘案。
- ・得られた情報を**共有**、協議して、独り善がりの判断を回避する。
- ・また多くの支援者がその選好に気づけるようにし、感度を高める。
- ・絶えず**蓄積**し、整理する。
- ・選好は変わり続けるので、以前と異なることが共有されたら**更新**する。

意思と選好(プレファレンス)情報の収集・共有・蓄積・更新

- ・「最善の解釈」を行うための基礎資料を集める
- ・「意思決定支援」の**プロセスを共有・確立し**、独りよがりの「解釈」を排する
- ・本人意思に対する、**支援者の気づき**(感度)を高める
- ・本人の持つ「価値観」への気づきと尊重を高める

価値観の尊重はソーシャルワークの基盤であり、価値観は選好を反映し形成される。

いつ、どのように行うか？



- ▶ 主として、「エンパワメントの相」で継続的に行われる
- ▶ 「レスキューの相」でも活用される
- ▶ 打ち合わせなどの機会を利用して、また日報などの活用
- ▶ 「選好」に関わる活動や発言があったか？
- ▶ 具体的に、明確に、客観と主観を整理して

安全性(リスク)と幸せ(幸福度、ハピネス)の観点から総合的に判断する。

グループワーク⑥

「～さんの好きなこと・ 嫌いなこと」

グループワーク⑥の進め方

- 1 個人ワーク(5分)
 - ・資料aを個人で作成する
- 2 個人ワークの内容をグループ内で共有(10分)
 - ・作成していて気づいたこと
 - ・身近な人、利用者について書き出すときの違い
 - ・うまく書けないのはどんなところ？理由は？

※個人情報の取扱いに注意し、過度に個人特定可能な情報としない、この場のみの話し合いに留めるなどの配慮をお願いします。

「～さんの好きなこと・嫌いなこと」(資料a使用)



1人の人を思い浮かべる(家族、友人など)

よく知っている人が望ましい、あるいは自分自身でも

その人の好きなこと(もの)や、嫌いなこと(もの)を、それぞれ3つ
あげてみましょう。案外難しい？

あげた中で、最も好きなことは何だろう？最も嫌いなことはなんだ
ろう？

利用者さんについても同じように考えてみましょう

選好・価値観の収集の重要性と支援者の役割



本人の選好や価値観を**収集・蓄積・共有・更新**することは、支援付き意思決定の場面でも意思推定(最善の解釈)や主観的最善の利益に基づく代理代行決定の場面においても、支援者の独りよがりの判断とならないために重要である。

本人の選好や価値観の収集等のためには、**支援者の日々の気づきと記録化のためのスキル**が求められる。

本人の「**微かに聞こえる声を聞く**」ことにより、本人の**自己効力感**を高めつつ、支援者自身の変化にも繋げることが重要。

グループワーク⑦

「かおるさんの パーソナルコミュニケーション辞書づくり」

グループワーク⑦の進め方

1 個人ワーク(約10分)

- ・動画1と2を見ながら資料bを個人で作成する(2回ずつ再生)

2 発表者を決める

3 個人ワークの内容をグループ内で共有(10分)

- ・動画1と2のどちらかの動画について共有するかグループで決める
- ・以下の内容について個人ワークの内容を共有する
 - 1 かおるさんの「しぐさ」「表情」などから分かったこと
 - 2 かおるさんの「好きなこと」(得意なこと)とその根拠

4. 全体共有

かおるさんのパーソナルコミュニケーション辞書づくり

【かおるさんについて】

- ・かおるさんは、知的な障害があり、言葉でコミュニケーションすることが難しいです。
- ・そのため、かおるさんの日常生活を記録し、意思と選考の最善の解釈に役立てることが必要です。
- ・次の動画をみて、かおるさんのパーソナルコミュニケーション辞書をつくってみましょう。

月 日 時間	① かおるさんが何をしたか	② これが意味するであろうことは何か	③ あなたは何をするべきか	④ ③をした結果
(例)	かおるさんが昼食を食べる介助をうけている間、口をしっかりと閉め、歯ざしりする。	1.私が彼女に食べさせた物の味が好きでない。 2.すでにおなか一杯食べた。 3.居心地が悪い。	1.かおるさんに何か他の食べ物や飲み物を提供する。 2.椅子の位置をチェックして、かおるさんが居心地悪いかどうかを確認する。	
	客観的状況 → 状況の背景 → 手だて → ここは記載しない			

動画①

飲み物の選択の場面(前編)

動画②

飲み物の選択の場面(後編)


動画②

服の選択の場面(前編)

動画②

服の選択の場面(後編)

おわりに



意思決定を行う際には、あることを覚えておくことが重要です。

時には、私たちのために重要なことは、必ずしも私たちにとって重要ではないということです。

人は、楽しませられたり、喜ばせられたり、そうした客体の側で、何かしら『してもらい続けて』も心底は嬉しくないものだ。

(中略)

『誰かの役に立ちたい』

『誰かに必要とされている』

『誰かが自分を待っていてくれる』

それがなくては生きていけないものだと思います。

※福岡寿 著「相談支援の実践力」中央法規(2018)より一部抜粋



あなたも、あなたの支援を受けている人も、
一度限りの人生を生きている。